

## 令和3年度 教育行政方針演述

令和3年3月釜石市議会定例会において、高橋 勝教育長が述べた「教育行政方針演述」の主な内容をご紹介します。

東日本大震災から間もなく10年が経過します。教育委員会としては、この10年間、子どもたちの笑顔と元気に頑張る姿が、釜石の生きる希望、復興の灯となることを願い、子どもたちに当たり前の日常を取り戻すこと、震災でつらく悲しい思いをした子どもたちの心のケアに努めること、そして、子どもたちが、夢と希望を持ち困難に負けず自らの未来をたくましく切り拓き、釜石市の復興と将来のまちづくりを担っていただけるよう「強く生き抜く力」の育成に取り組んでまいりました。

子どもたちは、市民の皆様・地域の皆様に見守られながら、感謝の心を持ち、一步一步、前に進んでまいりました。その歩みが一つの形となって表れたのが、昨年度、9月25日に釜石鶴住居復興スタジアムで開催された「ラグビーワールドカップ2019日本大会

岩手・釜石開催」フィジー対ウルグアイ戦での市内全小中学生による「ありがとうの手紙」の合唱です。今年度は、釜石市内全小中学生で組織する「かまいし絆会議」の提案により、9月25日を「絆の日」と定め、各小中学校で、「ありがとうの手紙」を合唱したり、あいさつ運動を行ったり、地域のゴミ拾いやお世話になった地域の方々に感謝の手紙を渡すなど、絆を深める取組が行われました。釜石の子どもたちは、優しく、たくましく成長しています。

令和3年度からは、新たに策定された「第六次釜石市総合計画」に基づきまちづくりが行われます。その初年度となる令和3年度は、この10年間の復興への取組の中で改めて実感した、「子どもたちは未来の希望である」「子どもたちの笑顔を守ることが教育の使命である」という思いを引き継ぎながら、「第六次釜石市総合計画」に掲げている「未来を担う子どもたちの育成」「子どもたちを育む

教育環境の充実」に向け、取組のスタートを切る年度といたします。子どもたちの内には、あふれる生命力があります。未来への夢と希望があります。保護者の皆様、地域の皆様とともに、子どもたちの内なる生命力を育み、可能性を伸ばし、生きること喜びを感じる子どもたちを育ててまいります。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、行事の延期や中止、3つの密を避けた生活などこれまでとは異なる学校生活になりました。令和3年度も新型コロナウイルス感染症による子どもたちへの様々な影響が懸念されますが、引き続き感染防止に努めながら、コロナ禍の中でも子どもたちが笑顔で学校生活を送ることができるよう、学校教育の一層の充実を図ってまいります。

### 『施策の概要』

知・徳・体の調和のとれた「強く生き抜く力」の育成を継承し、子どもたちが、将来、夢や希望を実現できるよう学校教育の充実を図ってまいります。

- (1) 家庭・地域と連携・協働した教育活動の推進
- (2) いのちの教育の推進
- (3) こころのサポートの推進
- (4) 豊かな心の育成
- (5) 確かな学力の育成
- (6) 健やかな体の育成
- (7) 特別支援教育の充実
- (8) 生徒指導の充実
- (9) 幼・保・小の連携と小・中連携の推進
- (10) キャリア教育の推進
- (11) 社会の変化に対応した教育の推進
- (12) ICT教育の推進
- (13) 国際理解教育の推進
- (14) 教職員が子どもと向き合う時間の確保
- (15) 学校給食の充実
- (16) 学校施設の整備

「学校規模適正化検討委員会」を設置しました。

当市においては、少子化が進み、児童生徒数の推移を見ても減少傾向にあります。

当市の実情に応じた児童生徒にとって望ましい教育環境の在り方について検討を行うために、保護者、民間の方、学校関係者等で構成する「学校規模適正化検討委員会」を設置いたしました。

今後、検討を重ね、釜石市小・中学校適正規模・適正配置基本方針の策定を行ってまいります。

## かまいし絆会議 ～未来への第二歩～

令和2年12月25日に第一回かまいし絆会議の本会議が金石市民ホールTETTOで開催されました。中学校のリーダーが入れ替わるこの時期の本会議を第1回目と数え実施しています。

今回初めて参加するという児童生徒もあり、少々緊張気味の雰囲気も感じられました。

会議は今回絆会議の会長となった甲子中学校の菅原優作さんとおなじく副会長の菊池音乃さんを中心に進められ、中学生のリーダーを中心に、様々な議題について話し合いが行われました。



発表に聴き入る児童生徒の様子

### 《1年間の活動テーマ (合言葉)を確認》

今回より、かまいし絆会議のテーマ(合言葉)を決めて、1年間の活動を進めていくこととなりました。会員ひとりひとりがより自覚をもって行動し、活動への意識をより向上させることを目的としています。今回のテーマは『つながり』と決まりました。コロナ禍だからこそ、人と人との結びつきを大切にしたいという思いが溢れるテーマとなりました。

### 《『つながり』を意識した 地域のための活動について》

絆会議のテーマである『つながり』を意識した地域のための活動について、それぞれの中学校区で話し合いを行い、発表しました。「地域の清掃活動」や「お世話になっている方々への感謝の手紙を贈る」、「小中合同での挨拶運動」、「ありがたいの手紙を地域に発信する」や「医療関係者へのメッセージ」など、コロナの状況も意識し

た活動内容となりました。今後さらに中学校区内で話し合いを進め、活動の詳細について検討していくこととなっています。また活動の際は、ぜひ地域の皆様方に応援していただき、活動のご協力をいただけたら幸いです。



話し合いの内容を模造紙にまとめる様子

### 《震災から10年 かまいし 絆会議からのメッセージ》

今年で震災から10年を迎えます。かまいし絆会議はまだ4年目の組織ですが、昨年度のラグビーワールドカップ開催に向けた取組などで大きな成果を残すことができました。また、地域のための活動を推進し、その実践に日々取り組んでいます。そこで、震災から10

年を迎えるこの節目に、かまいし絆会議からメッセージを発信することはとても意義があると考え、メッセージ作成に取組むこととしました。

メッセージは5つのテーマで構成され、『かけがえのない命』『生きる』『つながり・絆』『かわる』『防災』『そなえる』『感謝』『未来へ』となっています。5つのテーマをそれぞれ5つの中学校区で担当し、それらを併せてひとつのメッセージとなるようにしました。

完成したメッセージは、学校内だけでなく、広く地域の皆様方にも読んでいただけるよう、発信していきます。



中学校区ごとの話し合いの様子

## フッ化物洗口の実施 鵜住居小学校での モデル実施

教育委員会では鵜住居小学校をモデル校に指定し、フッ化物洗口の実施を行いました。

コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施時期を延期していましたが、2月12日に十分な感染症対策を講じながら、実施いたしました。

フッ化物洗口は、10mlの洗口液を口に含み、30秒間ブクブクうがいをするものです。歯ブラシがなかなか届かないところに作用し、虫歯を予防する効果があるといわれています。

鵜住居小学校では、登校後の朝の時間に実施しています。子どもたちは、先生の話をしっかり聞き、落ち着いた様子で、上手にブクブクうがいをしていました。今年度は、あと4回ほど実施し、来年度も1年間モデル校として実施する予定です。



## 岩手大学による土砂災害授業について

### 土砂災害防災教育の充実に向けて

教育委員会では、「自他の命を守るために、主体的に行動できる子ども」を育てるために、教育活動全体で防災教育を核とした「いのちの教育」を推進しています。各学校では、震災を経験し、そのことを踏まえた教育の実践をすすめています。

今年度は、重点の一つに「土砂災害に関わる授業の充実」を位置付け、協力校として小学校2校、中学校1校を指定し、岩手大学と連携して、土砂災害分野に関わる防災授業を行いました。

授業のねらいは「基本的な土砂災害のしくみを理解すること」、「土砂災害から自分の身を守るための知識を得て、今後の備え等について考え、具体的な行動へつなげること」の2点です。

実際の授業では、がけ崩れ、地滑り、土石流の発生のしくみやそれぞれの違いについて、岩手大学地域防災研究センターの福岡邦洋教授から説明を受けました。土砂災害クイズでは、子どもたちが真剣に考え、積極的に受け答えをする様子が見られました。2018

年に日本における土砂災害が、約3500件ということに驚いていました。

土石流の実験では、流れる水のスピードが速いため、逃げるのはかなり難しいこと、だからこそ、警報や市のお知らせで早めに逃げるのが大切であることを学びました。



「土石流・砂防ダムの実験」を見ている様子

子どもたちは一昨年発生した台風19号について振り返り、川の氾濫への対応や土石流の前触れについて学び、土砂災害警報、大雨特別警報、大雨警報の違いについても理解することができました。ハザードマップから身近な地

域における土砂災害の発生とリスク、避難場所を知った上で、土砂災害への備えについて考えることができたようです。

土砂災害に関する正しい知識を学んだあとは、防災ゲームに取り組みました。これは、災害時の避難訓練について考えるゲームです。様々な事情を抱えた住民の立場になるロールプレイと、大雨・土砂災害の状況をタイムラインで疑似体験するシミュレーションを組合せたものです。このゲームを通して災害時の避難行動や避難行動できない人の心理、避難後の問題について考えることができました。



「防災ゲーム」で話し合いをする様子

来年度は、全ての学校において授業実践をしていただく予定です。

## 学校給食「献立募集」入賞作品決定

令和2年度学校給食「献立募集」の入賞作品が決定しました。今年度は、新型コロナウイルスの流行に伴い、残念ながら表彰式を中止しました。この事業は、家庭でメニューを考え、料理を作ることを通して、自然や食べ物への関心を育み、生涯にわたって自己の健康管理ができる児童・生徒を育てることを目的としています。

今年度は、「ぼくの・わたしのおすすめ汁物」として、料理を汁物に限定して募集を行いました。

具沢山のものや、噛みごたえのある食材を使ったもの、減塩のものなど小学校54作品、中学校43作品の応募をいただきました。

入賞作品は次の通りです。

### 小学校の部

#### 【最優秀賞】

「モチモチ!!かぼちゃのすいとん汁」

双葉小学校1年

佐々木 洸 徳さん

#### 【優秀賞】

鵜住居小学校3年

佐藤 雅 大さん

鵜住居小学校2年

橋本 瑞 生さん

鵜住居小学校1年

山崎 愛 加さん

### 中学校の部

#### 【最優秀賞】

「免疫力UP! 具沢山ミルクスープ」

釜石中学校2年

関谷 佑 恭さん

#### 【優秀賞】

釜石中学校1年

須知 来 愛さん

唐丹中学校2年

鈴木 春 花さん

釜石中学校3年

阿部 琴 音さん



小学校の部  
最優秀賞作品  
「モチモチ!! かぼ  
ちゃのすいとん汁」



中学校の部  
最優秀賞作品  
「免疫力UP! ミルク  
スープ」



## 幼児期の学びと 小学校教育の円滑な接続に向けて

幼児教育は、子どもたちが生涯にわたって、心豊かに、たくましく生きるための基盤となる力を育むものです。

幼児期の遊びや生活を通して学びを小学校教育に円滑につなぐことは、学びの連続性を確保することにつながります。また、子どもたちが自信をもって主体的に自分の力を発揮しながら学びに向かうことを可能にします。



制作に集中する園児の様子

教育委員会では円滑な学びの接続に向けて、今年度は小佐野小学校を会場に、「幼保小連携研修会」を実施いたしました。

市内の小学校（主に1年生の

担当）幼児施設（主に5歳児の担当）の先生方が参加し、1年生の授業参観ならびに研修を行いました。

授業参観では、入学後の子どもたちの姿を見ることができ、小学校生活科の授業における幼児期の教育とのつながりについて学ぶことができた機会となりました。また、その後の研修会は、幼・保・小の接続の大切さやその視点についての講義があり、自校・園のカリキュラムを見直したり、より良く改善するためのポイントについて確認したりするきっかけとなりました。

研修の最後は小学校と幼児施設の先生方がそれぞれのカリキュラムを見比べたり、改善点などについて意見交換することができました。

子どもたちの学びの円滑な接続に向けて、『カリキュラムのつながぎ』と『先生方のつながぎ』の大切さについて実感できる有意義な研修となりました。

今後も教育委員会では、幼児



参加者の情報交換の様子

期の教育の質のさらなる向上と、学びの円滑な接続に向けた取組を、関係機関と連携しながら進めていきたいと思います。また、引き続き、研修会の実施や幼児施設からの相談等に対応しながら、一層の充実を図っていききたいと思っております。

### 【参加者の感想】

今日のようないろんな情報交換をすることは、幼保小で連携していくにあたり、とても大切なことだと感じました。

（小学校参加者）

スタートカリキュラムについて、小学校の先生方と子どもの姿等を共有したことで、接続する上で気をつけていきたいことを明確にすることができた。

（幼児施設参加者）

## 釜石小学校 鉄の学習

### 橋野鉄鉱山の見学

令和2年11月6日に、橋野鉄鉱山を見学しました。インフォメーションセンターでは映像とパネルで橋野鉄鉱山の概略を学び、高炉跡では2グループに分かれて現地見学を行いました。子ども達は好奇心旺盛で、次々と質問する姿がとても印象的でした。

また、市世界遺産課による発掘調査が実施されていたため、普段見る事のできない地中の様子を子ども達に知ってもらうことができました。



橋野高炉見学の様子

## 屋形遺跡の国指定に向けた動向について

令和2年7月に文化庁に唐丹町大石に所在する屋形遺跡についての国の指定に向けて、意見具申を行いました。その後、令和2年11月20日、国の文化財審議会文化財分科会は文部科学大臣に、史跡名勝天然記念物の新指定にふさわしいと答申いたしました。今後、官報において告示を受け、正式に国の指定となる予定です。国の指定となれば、橋野高炉跡、三貫島オオミズナギドリ及びヒメクロウミツバメの繁殖地に次いで、市内で3件目の指定となります。

屋形遺跡は学びの場として、公開、活用できるように整備していく予定です。



屋形遺跡全景（唐丹町大石）